

科目名称：	スポーツと健康（幼児教育学科）	
担当者名：	百海 智	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
国民の間には健康・体力づくりに対する志向が高まり、運動・スポーツの実践人口は次第に増加傾向にある。しかしながら、近年における都市化や生活の利便化等の生活環境の変化による運動量の減少、食生活の偏りが、成人病の増加、精神的ストレスの増大、青少年の体力の低下などの多くの問題を生じさせている。ここでは、その社会環境の中でより意欲的に運動し、心や体のあらゆる機能を向上し、豊かで逞しい生活を実践する方法を学びます。		
授業の達成目標・到達目標		
本授業では、まず健康・スポーツ科学に関連する基礎知識を深めます。その上で、本来運動スポーツが持つ爽快感や達成感などといった心理的側面に注目し、運動スポーツを実践していく上で必要な心理的なスキルを身につけ、モチベーション、持続力、パフォーマンスを高めていくのかを学びます。是非、生涯にわたって体力・健康維持増進に取り組んでいく姿勢を身につけましょう。		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	70		20	10	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 運動スポーツの意義、必要性① ※グループワーク形式で演習する。	運動スポーツによって、得られたもの、身に付けたものをメモにまとめてくる。	30分
第2回 運動スポーツの意義、必要性②（社会問題） ※ディスカッションをしながら演習する。	テキスト課題「運動スポーツ習慣レベルの確認」のレポートをまとめる。	60分
第3回 健康科学①（健康づくりの考え方） ※ディスカッションをしながら演習する。	「健康とは？」についてのレポートをまとめる。	60分
第4回 健康科学②（高齢化社会の健康、生活習慣病） ※ディスカッションをしながら演習する。	前回の復習から、「健康寿命の延伸」について自分の考えをメモにまとめてくる。	30分
第5回 体力科学 （体力とは？、トレーニング計画・方法）	「体力とは？」についてのレポートをまとめる。	60分
第6回 運動科学 （運動スキル、情報処理スキル、認知スキル）	自分のトレーニング計画と方法をまとめる。	30分
第7回 スポーツ心理学① （動機づけ、やる気）	それぞれのスキルについての復習を行い、効果的な運動学習モデルを考えてみる。	30分
第8回 心理的スキルトレーニング①（心理検査の実施）	メンタルトレーニングの意義・目的をまとめる。	30分
第9回 スポーツ心理学② （目標設定、集中力、リラックス）	心理検査から読み取れる内容を分析する。	30分
第10回 心理的スキルトレーニング② （グリッドエクササイズなどの実施）	目標設定、集中力、リラックスについて復習し、トレーニングに備える。	30分
第11回 スポーツ心理学③ （腹式呼吸、筋弛緩法、自律訓練法）	心理的スキルとして学んだ手法を日常的にトレーニングしておく。	30分
第12回 心理的スキルトレーニング③	腹式呼吸、筋弛緩法について復習し、トレーニングに備える。	30分
第13回 スポーツ心理学④ （ポジティブシンキング、セルフトーク）	心理的スキルとして学んだ手法を日常的にトレーニングしておく。	30分
第14回 心理的スキルトレーニング④	ポジティブシンキング、セルフトークについて復習し、トレーニングに備える。	30分
第15回 まとめと復習演習	心理的スキルとして学んだ手法を日常的にトレーニングしておく。	30分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、次回までの課題レポートをまとめることになる。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、70%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
予習課題レポートおよびノート20%、授業への積極的関与10%で評価する。

#### 課題に対するフィードバック

原則、課題ノートは定期的に提出し、学習成果を評価し返却する。

#### 教科書・参考書

「実践に生かすスポーツ教養」 加藤知己 東京電機大学出版局 2017年2月